

スタッフ全員が同じ意識を共有！

二人の存在が周囲を成長させた

株式会社図書館流通センター

(専門サービス業／上三川町立図書館)

【雇用障害者数】2名

上三川町立図書館で働くSさん(精神障害)について、館長の谷口さんにお伺いしました。



【採用・雇用のきっかけ】

今回の取材対象となる障害者Sさんは特別支援学校から実習を受け入れました。当初、Sさんの実習は栃木市の大平図書館で行われましたが、自宅から遠距離だったため、3年生10月からは上三川図書館で行うことになりました。

通常、特別支援学校から職場体験実習を受け入れる場合、回数や時期がおおよそ決まっていますが、Sさんのケースは3年生10月からの実習となったため、特例として卒業までの間に4回の実習を行いました。繁忙期は外し、期間も3～8日の間で調整しました。

【雇用にあたっての取組】

● アプローチ1 実習内容の決定

業務については大平図書館からの引継ぎ内容と、職業センターから指導を受けた「業務の切り出し」を活用し実習内容を決めました。「出来ない事を出来るように…ではなく、出来ることを見極める」ことを心掛け、また、Sさんは自閉症(※)という学校からの助言もあり、周囲も無理に話かけることはせず、本人のペースに合わせるようにしました。

※自閉症とは、一般的に他者とのコミュニケーション能力に障害・困難が生じたり、こだわりが強くなる神経発生的障害の一種、とされています。



● アプローチ2 館内職員の理解～採用までの経緯

スタッフの実習受入れ前研修として、職業センター及び特別支援学校教諭を講師に迎え、スタッフ全員で研修を受けました。職業センターからは一般的な障害者への対応や業務の切り出し等について、学校からはスタッフの不安を取り除くため、実習生個人の情報を開示してもらいました。各人の業務の中から、Sさんが出来る業務を切り出すという「業務の見直し」は、今まで当たり前だった各人の仕事内容を再考する機会となりました。

またSさんにどう説明すれば理解してもらえるかを工夫することが習慣化され、それが各々の説明力、接客スキルを向上させるという効果ももたらしました。また、自閉症の症状についても、事前情報があったことで、どんな症状でどんな対処が有効かを知り、戸惑うことなく対応がスムーズに出来たように思います。

ほかに、2ヶ月に1回休館日に行っているミーティングでは、障害者雇用が社会福祉であること、法定雇用率などについて周知し意識共有を図っています。

今回対象となっているSさんについては、実習中の業務も含め、こちらが求めるものが出来ていたので採用としました。

● アプローチ3 学校とのつながり

採用後も学校と連携をとることが多く、家庭とも親密な関係を築いています。連絡帳など書面での連絡が主ですが、定期的に家族の方に職場見学としてSさんの仕事を見てもらっています。家族と連携し、家庭での会話や本人の様子をうかがうことで、我慢していないか、無理はしていないかなど知ることが出来ます。

【職場定着のための配慮・工夫など】

図書館業務では複数のスタッフがシフトを組んで稼働しており、すべてを同じスタッフで指導することはできないため、業務日報などで情報を共有し混乱しないようにしています。

特別扱いはせず、他のスタッフと同じような形でタイムテーブルに沿って業務を行っています。

【現状と今後の課題】

Sさんが新たに出来る仕事を探す、業務の切り出しを行うなどのことを再度やるべきタイミングかと思っています。ただし、出来ないことをやってもらうのではなく、出来そうなことを探し出し本人の負担とならないかを試し、その上で徐々に業務を増やし可能性を広げたいと思っています。



【Sさん（20代女性）へのインタビュー】

Q. 現在はどんな仕事をしていますか？

A. ①植物への水やり

②配架（返却された本を元に戻す作業）の乱れを定期的に整理、整頓する作業

③ブラインドの調整（天候による本へのダメージを防ぐため、また、午前と午後で館内の明るさを自ら判断し調整）

④貸出文庫のクリーニング（学校に貸出し、返却されてきた本のクリーニングで、返却は100冊程度、表紙の汚れなど力を入れてクリーニングする）などです。

Q. 現在の仕事はどうですか？

A. 最初は思った以上に大変だなあと思いましたが、今は慣れてきました。

通勤時間が長いため早起きしないといけないので、朝5時30分に起床し、夜8時30分には寝ます。疲れも感じますが、やっている仕事は全部好きです。

Q. 今の職場はどうですか？

A. わからないことや何かあったとき、他のスタッフの方にすぐ聞ける雰囲気があり、安心できます。

Q. 将来の目標はありますか？

A. 本の修理を、今よりもっと綺麗に仕上げられるようになりたいと思います。



【取材を終えて～取材担当者コラム】

Sさんは表現したい言葉が中々出ない時もありましたが、常に笑顔を絶やさず、真剣に答えを探すなど、ひたむきな姿が印象的でした。出勤のため、早い就寝、早起きに努め、遅刻も休みもないそうです。

障害者雇用は障害の特性、個人の性格、周囲の従業員の価値観、家庭環境など様々なものが絡み合います。互いに努力し、歩み寄ろうとしても、難しい場合もありますが、今回は家族の協力が雇用の継続につながっているケースであると思いました。